

海洋プラスチックごみ問題を切り口とした SDGs 未来都市・対馬市の持続可能なしまづくり



流れ出る海ごみの元を断つために

毎年回収してもさらに海ごみは増え続け、2050年には海洋プラスチックが魚の総量を超すとの予測があり、人口減少が進む対馬は今後誰が回収するのかという問題に直面します。根本的な解決には、企業、消費者、行政の三位一体の取組が必要不可欠です。特に、大量生産・大量消費・大量廃棄を生み出す企業側へのアプローチは重要で、対馬市では企業・団体を対象に主に海洋プラスチックごみ問題を現地で学ぶスタディーツアーの誘致に力を入れています。

また、対馬市では学校教育でのESD（持続可能な開発のための教育）に加え、国際ボランティア学生協会や釜山外国語大学校等国内外の若者の海岸清掃やワークショップなどの啓発活動に取り組んでいます。



地元中学生による海岸清掃とモニタリング調査体験



日韓市民ビーチクリーンアップ ワークショップ



IVUSA 等大学生による海岸清掃ボランティア



企業・団体による SDGs スタディーツアー



対馬オーシャンプラスチックボックス&バスケット



プラスチック射出成型



対馬海洋プラ再生樹脂ペレット

漂着した海洋プラスチックごみの再利用

海洋プラスチック汚染や気候変動への世界的な関心の高まりを背景に、法制度整備や社会的要請に対応した企業側の取組みが加速しています。

そうした社会変化を踏まえ、SDGs 未来都市・対馬市では「日本一海洋プラスチックごみが流れ着く島」という弱みを強みに変え、ごみをごみとして扱うのではなく、企業・団体等と連携しながら、価値ある資源として再利用する取組を進めています。

リサイクル率が上がれば最終処分費用を軽減することができ、全量回収できていない海ごみの回収活動促進につながります。また、スタディーツアーやリサイクルを通じて多様な企業とつながることができれば、企業版ふるさと納税やガバメントクラウドファンディングなどの財源確保により、海ごみの回収量を増やし、美しい対馬の海を取り戻すことができると考えています。

対馬の環境・社会・経済の好循環

対馬市は、環境、社会、経済を調和させることで、いつまでも安心安全に暮らせる持続可能な社会の実現（SDGs）に向け、島内外の循環経済（サーキュラーエコノミー）を活性化させ、「環境立島・自立と循環の宝の島 対馬」としての対馬の価値を高めます。そして、エシカル消費（環境・人・社会・地域に配慮した消費行動）の浸透とともにツシマヤマネコ米や磯焼け食害魚のメンチカツ、有害鳥獣の島ジビエやレザーなど環境保全貢献型商品、SDGs スタディーツアー等の消費を拡大し、対馬の環境・社会・経済を守る生業の確立を目指します。



ヤマネコ米

磯焼け食害魚のフライ・メンチカツ